

じどうかん通信

第 133 号

令和 7 年 10 月発行

愛知県児童館連絡協議会

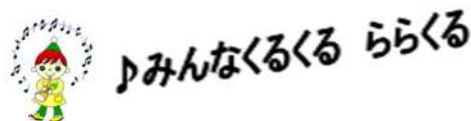
こどもプラザも児童館に仲間入り

碧南市 こどもプラザ ららくるにしばた

こどもプラザ こころつくしんかわ

碧南市は二つの児童センター（棚尾児童センター・東部児童センター）に加え、こどもプラザ 2 館も児童館として加わりました。今回はその 2 館の紹介をします。

『こどもプラザ ららくるにしばた』



ららくるにしばたは碧南の外れに位置するため市外からの来館も多く、また近くに団地があり放課後は小中学生達の元気な声が飛び交っています。異年齢の縦のつながりも自然にできているようで卓球やボードゲームなど喧嘩をしながらも楽しんで遊んでいます。



当館の特徴は、貸館（音楽室、調理室、サークル室）があることです。音楽室は近隣には少ないドラムセットを完備し、バンドや吹奏楽など部活の練習にも利用されています。調理室はたこ焼きパーティや親子クッキングなどのお楽しみ会で、サークル室はダンスの個人練習、習字教室などの習い事にも利用されています。二つ目の特徴は中高生しか使えない学習室があることです。定期考査の時期になると部屋が満員になるほどで中高生が一生懸命勉強をしています。

『こどもプラザ こころつくしんかわ』

当館の特徴は①大型遊具、②おもちゃ図書館、③ファミリー・サポート・センターが設置されている点です。また、発達のゆっくりなお子さんの遊び場・交流の場ともなっており、保護者の方々の相談も随時受けています。

- ① 大型遊具は概ね 2 歳から就学前児が遊ぶことができ、この遊具目当てに市内外から多くの方が来館されます。②おもちゃ図書館は発達のゆっくりなお子さんの家族が周りに気を遣うことなく遊べる部屋となっています。③ファミリー・サポート・センターも兼ねているので、フロア内で説明会やお子さんの預かりを行うことができます。



フロアは 0、1、2 歳児の専用スペースと、3 歳以上児のスペース、また小学生以上が利用できる“こころーム”に分かれ、それぞれ年齢にあったおもちゃ等で遊ぶことができます。こころーム内には卓球台あり、小中学生が日々楽しそうにゲームをする姿が見られます。

第1回西尾張ブロック研修会に参加して

清須市 新川児童センター 野崎夢果

令和7年6月5日（木）大治町スポーツセンターで開催された「第1回西尾張ブロック研修会」に参加し、愛知県児童総合センターの阪野大介氏による「表現活動 イロとカタチとキモチ」にて、実技を学ばせていただきました。児童総合センターのあそびの特徴、また実際に行われていた造形表現としてのあそびのプログラムを教えていただく中で、特に私が印象に残ったのは「工作の答えは決まっているが、表現の答えは自分で決める」という言葉でした。表現遊びは正解が無く、子ども達がそれぞれ思い思いに自分の世界を表現することができる活動と学びました。他と比べて評価されない表現遊びは、児童館においてぴったりの活動であると感じ、実際に全員の作ったものが並んだとき一つとして同じものが無く、それぞれの個性が出ていてとても素敵だと思いました。

表現遊びというと、「何でも自由にしていよいよ」と言いたくなってしまうのですが、あえて少しの枠（不自由さ）を設けると、その中で子どもが工夫して考えることができるそうです。今回の研修でも紙を切るときに回数が決まっていたり、下書き無しで書いてみたりと少し枠があると不思議と手が動き、「こうしてみよう！」と考えることができ、児童総合センターの“過程を大切にする”あそびのプログラムの面白さを肌で感じました。

午後の「資質向上のための研修」ではカプラを使った遊びを教えていただきました。すべてが同じ形というカプラの特長を活かし、試行錯誤してタワーや町を作りました。気付けば近くにいる他市町村の職員の皆さんと会話が弾み、楽しみながら素晴らしい町ができあがりました。全てのカプラを使い切って作った町は圧巻で、自然と拍手が生まれて一体感を味わうことができました。ナイアガラの滝づくりでは真剣になって楽しむ姿があり、私たちのそんな姿を見て、子ども達も「一緒にやりたい！」「楽しそう！」と思ってくれるのではないかと実感しました。

今回の研修では児童館職員として、指導者ではなく子どもの共感者となっていくことの大切さを教えていただきました。学んだことを活かし、児童館での遊び活動を体験した子ども達に「楽しかった！」「また来たい！」と思ってもらえるような児童館を目指していきたいと改めて感じました。



第1回児童厚生員研修会に参加して

瀬戸市 セとっ子ファミリー交流館 山崎直生

令和7年7月11日（金）、尾張旭市渋川福祉センターにて開催された第1回児童厚生員研修会に参加しました。愛知県東郷町立兵庫児童館館長の高阪麻子氏より、午前は「集団援助活動」、午後は「資質向上のための研修 ファシリテーター大作戦～こどもの声を聴くために～」と題した研修が行われました。

午前は集団援助活動（グループワーク）の考え方や支援員（グループワーカー）の具体的な仕事内容など講師の経験談や実践を交えて教わりました。集団援助活動は単なるグループ単位で行う活動やグループ作りではなく、グループを媒体として個人や地域の問題・課題を解決する活動であり、子ども一人ひとりの個性や性質、独自性を尊重し、その姿を受け入れ理解していくことが大切だと感じました。子ども同士での関わりが苦手な子がカラオケ大会を企画し実行した実践例を講師が挙げ、その子を他の子と関わりを結び付けられるように基本的な性格や好き嫌い、得意不得意、価値や考え方などを1対1の関わりで把握した事、そこからグループのメンバーとの関係作りのためにグループワーカーとして働きかけた事（グループの雰囲気や和らげる、子どもからのどんな発言も受け止めるようにしお互いの発言を尊重できる雰囲気にする、メンバーが相互に関心を抱き仲間意識を持てるようにするなど）を話され、具体的に学ぶことができました。

午後は5～6人のグループになり、子ども同士での話し合いの場で参加者の意見を引き出したり、円滑な合意形成を促したりする進行役（ファシリテーター）のグループワークを行いました。始めにファシリテーターとしての心構え（いい意見を求めない、まとまらない・決まらないこともある、大人が導くことがあっても良い）や子どもの声を聴くためにやりすぎない事（話しすぎる、話を途中で遮る、ネガティブなリアクションをするなど）を学び、グループ内でファシリテーター役を決め講師からのテーマをもとに話し合いの実践をしました。

話し合いの中でうなづきやあいづちをする、発言を否定しないように受け入れる、意見を出していない人へのパスを出すなどファシリテーターとしての役割を意識し進めようとするのですが、相手から発言が出てくるような自然体でリラックスができる雰囲気を作ることが難しかったです。子どもを相手にする時には、リラックスできるような雰囲気作りに努め、安心して自分の意見や思いを言い出せるようにしていきたいと思いました。

今回の研修では子どもたちが企画して進めようとする時の具体的な援助方法や、話し合いで子ども一人ひとりの意見や思いが出しやすくなる進行のやり方といった実践的な方法を学ぶことができたので、これからの業務に活かしていきたいです。

～行事の紹介～ こども会議からのおばけ屋敷イベント

武豊町 おおあし児童館

7月に「児童館をもっと楽しい場所にしよう」をテーマにしてこども会議を行いました。いろいろな意見や提案が出てきた中で、一番こどもたちの目が大きくなってキラキラ輝いたのが「自分たちで考えた行事をやりたい」でした。今までも夏休みはこどもたちに「お手伝い隊」と銘打って、夏のお楽しみイベントを手伝ってもらっていましたが、今回は「自分たちで考えた」がポイントでした。そうと決まれば、まずは企画会議です。「何をやるか」の話し合いでは、やりたい事が3つあがりました。職員の心の中では、当然この中から1つに絞る想定をしていましたが、こどもたちから出た結論は「3つともやりたい！」でした。職員も、もうこうなったらトコトン付き合おうと腹をくくり、具体的な準備に取り掛かりました。

イベント名は「3（スリー）ミックスおばけ屋敷」です。おばけ屋敷なのに迷路になっていて、謎解きもして、隠れキャラ探しもする！というもので、しかも怖いだけではかわいそうだから、おばけ屋敷を出たらミニゲームで楽しめる。という超スペシャルな内容です。

「こどもスタッフ」は何も縛りが無く、やりたい子は誰でもいつでもやれます。なので、たまたま遊びにきて何だか気になるからやってみたという1回のみの子もいれば、ほぼ毎日来る子もいました。家で考えて書いてきてくれたり、ふざけている男子を女子が注意してくれたり。こどもたちが、それぞれの意識や性格やペースなどの中で、真剣に、そして、楽しんで準備をしてくれている姿が職員にとっては毎日感動でした。

いよいよ本番を迎えますが、3日間開催し、開始時間前の準備から合わせて3時間、来てくれるお客さんのために全力で頑張ってくれました。その甲斐もありイベントは大盛況で、小さい子からも家族連れからも喜ばれ、3日間とも来てくれるお客さんもいたほどでした。こどもスタッフたちもさぞかし疲れただろうと思いきや、翌日の解体作業もキャッキヤしながら元気いっぱい片付けてくれ、最後には出たゴミでボール遊びをしていました。そしてヘトヘトな職員の横で「来年は〇〇しよう！」とこども同士で盛り上がっていました。

「児童館は自分が行こうと思って行ける場所」それぞれのこどもたちが、楽しくて安心できる居場所として児童館を選んでもらえるようにこれからももっと頑張っていきたいです。



～行事の紹介～ 地域連携で作上げる児童館での防災訓練

みよし市 福田児童館

福田児童館では、児童及び幼児親子を対象に防災訓練を実施しています。市の防災安全課が機能別分団員の派遣事業を実施していることを知り、合同で防災訓練をしたいと依頼し、令和3年度から実施しています。また、地域の消防団・女性消防団にも一緒に活動してもらうことで、地域連携も図っています。

訓練内容は、【新聞紙スリッパ作り】【煙体験】【水消火器体験】【消防車展示】【防災クイズ】【非常食紹介】を行っています。令和6年度は、児童17人と幼児親子3組、機能別分団員5人・消防団員6人が参加して実施しました。

新聞紙スリッパは、片方は説明を聞き少し戸惑いながら作ります。もう片方は、頑張って自力で作ります。毎年参加していても新聞紙スリッパの作り方は忘れがちで、記憶をたどりながら

「あっ！こう折るんだ！次はこうだ！出来た！」と声をあげます。みんな完成したときは達成感に満ち溢れています。

続いて、作った新聞紙スリッパを履いて煙体験をします。部屋に障害物として机を置き、無害の煙を入れたら準備完了。注意事項を聞いたらスタートです。壁伝いに進んで行き、出口から出て来たこども達は、「息苦しい！真っ白で何も見えない！でも楽しい！」などと真剣な表情で言います。

水消火器体験は、消火器に水を入れたものを使用します。こどもたちどうして「もう少し下！上！こっち！」などアドバイスをしながら的に水をかけて倒していきます。こども達にとっては一番楽しいブースなのかもしれません。

消防車展示は、運転席に座ることができたり、装備されている道具に触れたりと普段できないことができ、興奮している様子が見られます。防災クイズは知っておいてほしいことなどを2択で答えてもらいながら解説をします。非常食紹介は、展示のみとしています。

いつ起きるかわからない災害に備えて、日頃から準備をすることに役に立ててもらえたら嬉しいです。また地域の消防団との交流の場として恒例行事として今後も実施していきます。



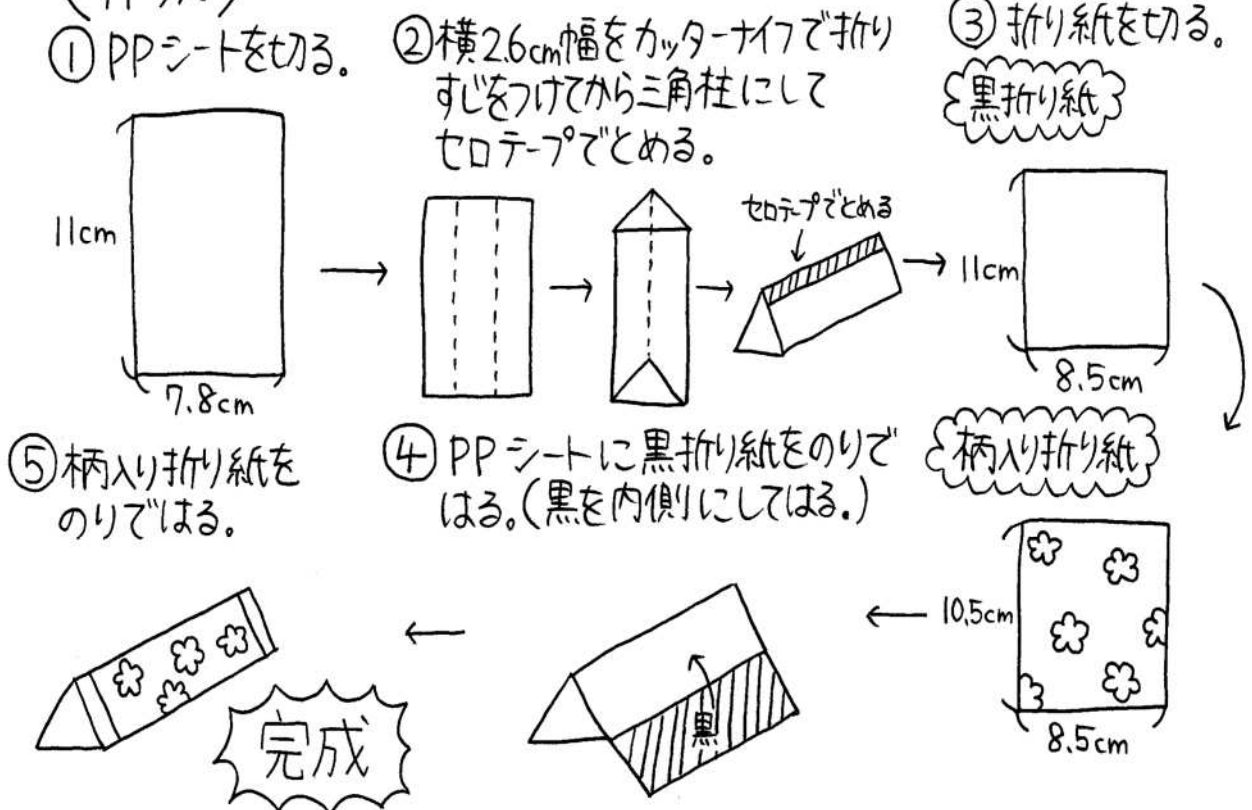
～遊びの紹介～ どこでも万華鏡

一宮市 外割田児童館

【材料】PPシート 黒折り紙 柄入り折り紙 (もしくは千代紙、包装紙など)

【用意する物】はさみ、のり (スティックタイプ)、カッターナイフ、セロテープ、工作板

<作り方>



<あそび方 & つかいかた>

※どこから見てもO.K!

1 万華鏡を「ちびネ」の上にたてる。→「ちびネ」がぐんぽ

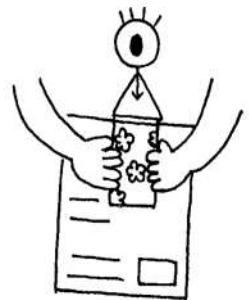
2 万華鏡をのぞきながら....「ちびネ」からゆくりはなれよう!3 「ちびネ」にゆくりちかづこう! →「ちびネ」がさんかくの家の中に!?

↳「ちびネ」どうなる?!

4 万華鏡をゆくりまわそう! さあ、どうなるかな!?

※いろいろ見てみよう!!

たとえば....

本だな、すだれ、おりがみのたば、てのひら、ともだちのかお
空、雲、木、などなど、オリジナルをさがしてみよう!!

～遊びの紹介～ 街作り

常滑市 常滑児童センター

レゴブロック、LaQ、カプラ、工作などそれぞれが楽しみながら作った物を、遊戯室の広いスペースに集めます。個人で作った物や仲の良い友達と一緒に作った物を好きな所に並べ自分達の場所を作っていきます。さらに空いているスペースにカプラでタワーを作ったり、道を作ってつなげたりしていくと、ひとつの大きな街に見えてきます。個々で楽しみながら作った作品が友達の作品とつながり、嬉しさや一体感を感じられます。



お知らせ

第 14 回 元気スイッチ on!! あつまれ! あいちのじどうかん

2025 年は「つながる力! みんなでつくる児童館」をテーマに安城市で開催

有意義な大会となるよう、大会実行委員と事務局が一丸となり、5月から一生懸命準備を進めています。保護者、地域、児童厚生員等多くの方の声を聴き、さまざまな知識やノウハウも得ながら、今後の児童館の運営にもフィードバックできる絶好の機会になると思いますので、みなさまぜひご参加ください。

開催日: 11 月 30 日 (日) 午前 10 時より開会式

会 場: へきしんギャラクシープラザ (安城市)

○JR 東海道線「安城駅」下車 徒歩 10 分。公共交通機関をご利用ください。

【基調講演】10:30~11:30

“こどもとつくる児童館と改正児童館ガイドラインの活用”

講師 植木 信一 さん 新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授

【分科会】13:00~15:30

○第 1 分科会 [こどもの思いを汲みとる]
こどもの心に寄り添うボディトーク講師 栗嶋 紀子さん
(「とぶくじら WORKS」代表)○第 2 分科会 [こどもと遊びをつなぐ]
みんなも楽しい! ひとりで来ても楽しい!事例発表 志村 貴子さん
(愛知県子育てネットワーク)○第 3 分科会 [こどもの声からつくる児童館]
こどもたちと「こうだといいな」をかなえよう事例発表 渡辺 宏明さん
(稲沢市立西町さざんか児童センター児童厚生員)
酒井 華奈子さん
(東浦町立緒川児童館館長)

【あそびば】10:45~15:15

各団体イチオシの工作やゲームなど、楽しく遊びながら体験できます。

○参加団体 (12 団体)

- ・名古屋市児童館
- ・一宮市立児童館
- ・春日井市児童館
- ・常滑市児童館
- ・清須市 8 児童館
- ・東浦町 7 児童館
- ・市が洞児童館
- ・武豊町 4 児童館
- ・扶桑町児童センターひまわり
- ・安城市 9 児童センター
- ・設楽町子どもセンター
- ・みよし市出張児童館

※大会の内容や参加申込方法などの詳細は、下記公式サイトをご確認ください。

<https://www.acc-aichi.org/jidoukan/switchon-2025/>